あとがき

中河内は、旧大和川が幾筋にも分かれて、北の湿地に向かって流れ、水害の常襲地であったところである。ここに1704年に大和川の付替えが行われ、新田が開発されるとともに、河内木綿の産地として栄えたところである。また、剣先船や柏原舟に代表される舟運の盛んであった地域でもある。また、近年の都市化の進行に伴って、洪水の危険に加えて深刻な水質悪化に悩まされた地域でもあり、総合治水対策と環境整備の両面で注目されている。

私の勤務している摂南大学は寝屋川市にあり、同じ寝屋川流域であることから、この地域には以前から強い関心を抱いており、特に長瀬川については、以前、環境整備委員会の委員をしていたこともあって、何度も訪れた。今回、さらに平野川を合わせて勉強する機会をいただくとともに、多くの方から情報をいただいた。記して謝意を表したい。

(公社)日本水環境学会関西支部川部会／澤井　健二

参考文献

・アクアフレンズ(2012)アクアだより, No.15, 64pp.
・柏原市立歴史資料館(2012)中家文書から見た中甚兵衛の生涯, 12pp.
・柏原の郷土史を探る会(2010)わが町柏原のなりたち, 6pp.
・国土交通省大和川河川事務所管内図.
・澤井健二(2004)日本水環境学会関西支部川部会「関西の川歩き」No.5, 長瀬川－大和川の水で中河内を潤す農業水路－, 環境技術, Vol.33, No.8, pp.71-73, 環境技術学会.
・大阪市建設局南部方面管理事務所　－ http://www.city.osaka.lg.jp/kensetsu/page/0000144047.html
・平野川筋探訪(2012)　－ http://music.geocities.jp/mtaketoshijp/newpage6.htm
〔写真提供〕
・大阪市HP(平野下水処理場)
・大阪府危機管理室(中部広域防災拠点)
・大阪府HP(寝屋川南部地下河川、川俣水みらいセンター)
・大阪府柏原市HP(三田家住宅)
・大阪府八尾市HP(Eボート)

既刊の紹介

・源流を行く 編　『名張川』(2013)
・みやびな川 編　『白川』(2010)『鴨川・明神川』(2012)『琵琶湖疏水』(2013)
・歴史とロマンの川 編　『瀬田川・宇治川』(2010)『保津川・桂川』(2011)『芥川』(2011)『猪名川』(2013)
・なにわの川・庶民の川 編　『東横堀川・道頓堀川』(2011)『恩智川・生駒の川』(2012)

〈企画編集〉(財)琵琶湖・淀川水質保全機構
(公社)日本水環境学会関西支部川部会
(社)近畿建設協会

琵琶湖・淀川　里の川をめぐる
～ちょっと大人の散策ブック～〈なにわの川・庶民の川編〉

中河内の川　(Nakakawachinokawa)

〔発　行〕平成25年3月
〔発行者〕財団法人　琵琶湖・淀川水質保全機構
〒540-0008 大阪市中央区大手前1-2-15 (大手前センター ビル4F)
TEL. 06(6920)3035　FAX. 06(6920)3036
<ホームページ> http://www.byq.or.jp/
＊散策ブックはホームページ上で閲覧することができます＊

©BYQ, 2013　Printed in Japan

「　飲める水　遊べる水辺　次世代に　」

琵琶湖・淀川　里の川をめぐる
～ちょっと大人の散策ブック～

なにわの川・庶民の川 編

中河内の川
(Nakakawachinokawa)

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構
(公社)日本水環境学会関西支部川部会
(社)近畿建設協会

「琵琶湖・淀川流域散策ブック」のねらい

（財）琵琶湖・淀川水質保全機構と（公社）日本水環境学会関西支部川部会、（社）近畿建設協会は、大都市圏の川を水質という側面だけではなく総合的に把握し、その機能を再評価するために川部会が2001年より行ってきた活動の成果を基礎に、「琵琶湖・淀川流域散策ブック」をまとめることになった。

この散策ブックは、琵琶湖・淀川流域の河川を散策する時に気軽に携帯できるガイドブックを意図して作られており、対象河川の概要はもとより、流域の見どころ、名水や滝、水質や生物、その川にまつわる興味深い話などが、豊富な写真や地図を用いて解説されている。

散策ブック全体は、「源流を行く」、「おうみの川」、「みやびな川」、「歴史とロマンの川」、「なにわの川・庶民の川」の5編で構成され、それぞれ5、6リーフレットからなる。本リーフレットでは、なにわの川・庶民の川編として、河内平野（中河内）を流れる長瀬川・玉串川、楠根川、平野川ならびにそれらの合流する第二寝屋川を取り上げた。

本ブックシリーズが、琵琶湖・淀川流域の河川に親しみを感じ、流域を散策するための一助になることを願っている。

目次

CONTENTS

ねらい・目次

中河内の川の概要 …… 02

長瀬川・平野川上流ゾーン …… 03

コラム１　大和川の付替え …… 05

長瀬川・平野川中流ゾーン …… 07

コラム２　寝屋川南部の地下トンネル河川 …… 10

長瀬川・平野川下流ゾーン …… 10

コラム３　大和川付替えの波及効果 …… 12

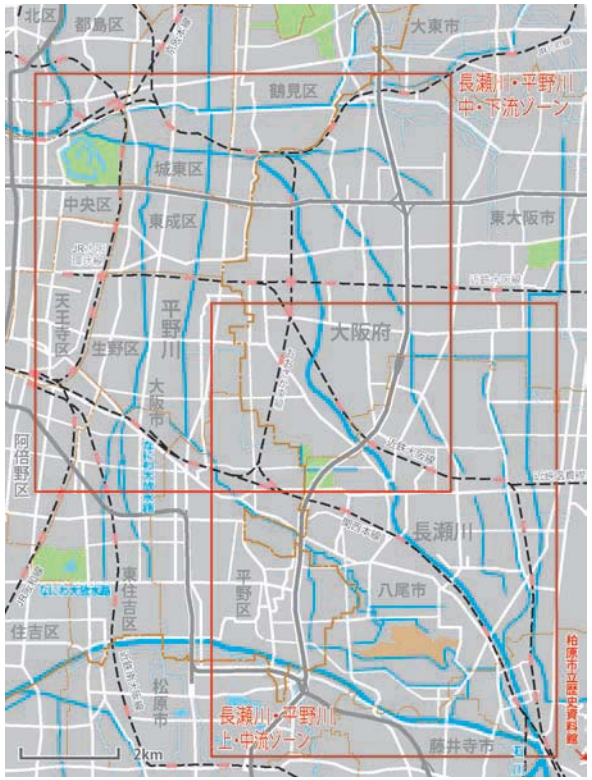
コラム４　長瀬川・平野川の水質 …… 14

（表紙写真／二俣地点における長瀬川（右）から玉串川（左）への分派）

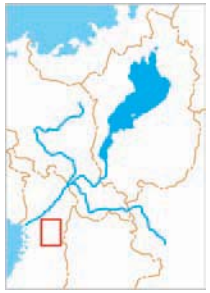
1　中河内の川の概要

この地域の北部は約6000年前までは海域（河内湾）であったが、北から流れてくる淀川と南から流れてくる大和川からの流出土砂が堆積し、2000年前には河内潟さらには河内湖へとしだいに水域が後退しながら湿地を形成していった。中南部では、奈良盆地から流れ下る大和川と南河内から流れ下る石川の合流した久宝寺川（現在の長瀬川）やその派川の玉串川、楠根川などが平野の中央部を流れ、さらに大泉川（現在の大水川）、東除川（ひがしよけ）、西除（にしよけ）川などの合流する平野川が上町台地の東麓を流れていた。それらの河川の下流部は新開池（しんがいけ）等に代表される湿地につながっており、上流部から流れてくる土砂の堆積によって河床は高く、水害の常襲地であった。

1704年の大和川付替えによってそれらの河川は洪水の常襲から解放されるとともに、大和川から長瀬川と平野川に取水した水を利用して新田開発がなされ、河内木綿の産地として栄えた。第2次世界大戦後は、急激な市街化の波にのまれ、湿地が宅地化されるとともに、過度な地下水のくみ上げによって地盤が沈下し、再び水害の常襲地となった。また、一時期は下水道整備の遅れから、工場および家庭排水による水質汚濁が深刻となった。近年は、総合治水対策による治水安全度の向上と下水道整備等による水質改善が進み、水環境は向上しつつある。



中河内の川流域図

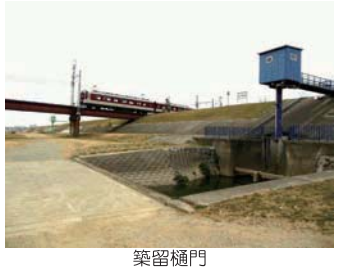


2 長瀬川・平野川上流ゾーン

この地区を流れる2つの代表河川（水路）である長瀬川と平野川の上流端は、いずれも柏原（かしわら）市役所にほど近い**大和川**で、その取水口はそれぞれ**築留（つきどめ）樋門**と**青地樋門**である。

これらの樋門の最寄り駅は近鉄大阪線の「安堂」で、駅の傍らに聳え立つ一際大きな建物は、**柏原市民文化会館**（愛称リビエールホール）である。この建物の2階に上がると、廊下の窓からあたりを一望することができる。正面の眼下に見えるのが大和川で、真向かいから**石川**の合流してくる様子がわかる。

目を右（下流方向）に転じると、そのすぐ近くに**築留土地改良区「水土里（みどり）ネットつきどめ」**の事務所があり、その傍らに**大和川付替え記念碑**と付替えの功労者である**中甚兵衛**（1639～1730）**の立像**が建っている。付替えの歴史については、**柏原市立歴史資料館**に詳しい資料が保存されている。


築留樋門

青地樋門

柏原市民文化会館

築留土地改良区「水土里ネットつきどめ」

大和川付替記念碑

中甚兵衛立像

柏原市立歴史資料館

「アクアロード」

二俣での長瀬川の分派

石灯籠

築留樋門は2つあり、両樋門から取水された水はすぐに合流して農業用水路としての**長瀬川**となるが、柏原市内の長瀬川沿い約1.5kmは、「アクアロード事業」による環境整備がいち早くなされ、コイも放流されて、市民の憩いの場となっている。遊歩道の路面には、タイル製の「かるた」が埋め込まれており、道行く人を楽しませてくれる。さらに、川に少し張り出した8ヶ所の休憩所には陶製のイスが3個ずつ置いてあり、そのイスには童謡が書かれていて楽しめる。その一つである**清洲橋**の欄干は朱色で一際目を引くが、その川べりに白親大神（はくちかおおかみ）が祀られている。これは、1950（昭和25）年のジェーン台風の際、この地区に大きな災害があり、以後災害のないことを祈願して祀られたものである。

この長瀬川沿いにJR大和路線（関西本線）が通っているが、ここは旧大和川の堤防に当たる。長瀬川を北に辿ると、八尾市内に入った**二俣**（ふたまた）で、**玉串川**（これも農業用水路）が北東へ分派し、恩智川のすぐ西を並行して八尾市中央部を北流する。玉串川を分派した後の長瀬川は八尾市西部をJR関西本線に並行して北西方向に流れ、八尾駅の方へ向かう。

一方、**平野川**の取入れ口である青地樋門のすぐ傍らには、JR柏原駅と近鉄道明寺（どうみょうじ）駅をつなぐ近鉄道明寺線の柏原南口駅があり、大和川を渡る鉄橋の姿がどこか懐かしい風情を醸し出している。樋門のすぐ下流で国道25号線が大和川から離れて北へカーブする手前に、**石灯籠**があるが、これは大和川の舟運（剣先船）の安全を祈願する金毘羅信仰によるものである。

青地樋門から取水された平野川はすぐに1級河川となり、柏原駅の正面（西側）付近で修景整備がなされている。そのあたりは、昔の柏原舟の舟溜まりであったが、現在は**舟溜まり跡の碑**が残るのみで、児童公園になっている。そのほとりに商家**三田家住宅**（重要文化財）がある。その前の通りは**旧奈良街道**で、すぐ向かいにはもう一軒の商家**寺田家住宅**（登録有形文化財）がある。

ここから西に向きを変えて八尾市に入った平野川は、一部暗渠となって八尾空港の北側を流れ、市の西端部で**空港放水路**、大阪市平野区で**大正川**を合流する。

平野川と八尾空港の間には**北濠**と呼ばれる遊水地、さらに空港北端には**大阪府中部広域防災拠点八尾広域防災基地**があり、一部が調節池となっている。なお、このあたりの平野川は地元では

舟溜まり跡

三田家住宅

コラム ❶　大和川の付替え

大和川は、1704年2月から10月までのわずか8ヶ月間に、柏原から堺まで超スピードでなされた工事が有名であるが、この工事の実現の前には、幾多のいきさつがあった。

旧大和川の水を大阪平野へ抜く放水路の計画は、古くは和気清麻呂の時代にさかのぼる。清麻呂は「摂津・河内両国の境に川を掘り堤を築き、荒陵の南より河内川を導き西方海に通したならば多数の沃田が開けるであろう」と主張して、791（延暦7）年述べ23万人を動員して、上町台地を開削する工事を始めたが、完成にはいたらなかった。この開削工事は、天王寺公園茶臼山の旧河底池を西端とし、堀越神社南をとおり東住吉区杭全町付近で平野川に結びつける計画であったと言われている。

その後、1659（万治2）年ごろ、河内農民による大和川付替え運動が始まったようであるが、50年以上、その願いは幕府に聞き入れられず、陳情が下火になった後の1704年になって突如実行に移されたようである。

〔大和川付替え前の図〕

大阪府中部広域防災拠点八尾広域防災基地

河内橋

柏原堰堤

「井路川舟」

船着場・周濠

了意川と呼ばれている。

八尾市と柏原市の市境南端に藤井寺市の川北地区があり、その東端、**河内橋**のたもとに国土交通省大和川河川事務所がある。その直上流の大和川本川に**柏原堰堤**があり、堰の下流には瀬と渕浄化施設や魚道が整備されている。大和川の水質は長年、全国の1級水系直轄区間のワースト1にランクされていたが、近年浄化が進み、環境基準をクリアするようになっている。

ところで、この地域には長瀬川や平野川のような大きな河川（自然に形成された流路）・水路（人工的に掘られた流路）だけでなく、かつて「井路川」と呼ばれた小さな水路が数多く存在し、その一部は今も残っている。これらの流路の内、平野川のようないわゆる河川は基本的には公有地であり、国や府県、市町村が管理するが、長瀬川や玉串川のような大きな農業用水路は農家の出資による土地改良区という特別地方公共団体の管理となっていることが多い。

井路川とは田園地帯を流れるクリークのことで、**柏原舟**や**剣先船**などの幕府の認可を受けた株仲間の運送業者の川舟や、野菜や下肥などを運ぶ農家の田舟「**井路川舟**」が往来していた。かつての河内平野における物資の運搬は舟運が主で、川筋ごとに免許制が取られ、賃積を行っていた剣先船や農家の手舟など、さまざまな船があった。剣先船はそれらの中の代表的なもので、船首が剣先のようにとがっていることから名前がつけられ、江戸時代、奈良・大阪付近の浅い川で荷物運送に使われたが、大和川付替え後は、**大坂川船**に取って代わられた。

3 長瀬川・平野川中流ゾーン

玉串川は八尾市内を**恩智川**に並行して北流した後、**玉串橋**地点で**第二寝屋川**に合流し、東大阪市に入った後も、第二寝屋川と並行して北西方向に流れるが、一部を除いて暗渠化されている。八尾市内の玉串川の周辺は、柏村の南部に田畑が広がり、近鉄河内山本駅付近に高層建物が見られる以外は、閑静な住宅街となっている。特に、二俣付近と柏村橋付近から五月橋交差点、山本橋から山本町北7丁目付近までの両岸には、桜の木が植えられ、「**玉串川の桜**」として大阪ミュージアム登録物になっている。

玉串川と長瀬川のほぼ中間で八尾市のほぼ中央部に位置する八尾市役所の南東部八尾木地区から、一級河川**楠根川**が北へ流れ出し、東大阪市との境界部を西流してくる第二寝屋川に合流して、東大阪市の中央部を北西方向に流れる。楠根川の一級河川起点では、道路の下の暗渠からいきなり川が始まる感じで源頭の趣はない。しかし、八尾枚方線萱振橋の東には「**楠根川せせらぎ広場**」があり、浅い水路沿いに遊歩道やあずまやが設けられ、憩いの場となっている。

玉串川の桜

楠根川

楠根川せせらぎ広場

渋川神社

旧植田家住宅

狐山

金毘羅灯籠

第二寝屋川は八尾市と東大阪市の境にある**恩智川治水緑地**から西流して、玉串川、楠根川を合流させると北西に向きを変える。その直前の東大阪市若江南2丁目（近鉄奈良線若江岩田駅南200m）の若江公民分館前に、**若江城址**の案内板と碑が建てられている。

八尾市二俣からJR大和路線と並行して北西に向かう長瀬川は、JR八尾駅のそばの安中（やすなか）で向きを少し北寄りに変えるが、JR八尾駅の駅前には**安中町親水公園**が設けられている。

駅のすぐ南東の密集市街地の中には**渋川神社**がある。この神社は古くは旧大和川右岸の安中町にあったが、1533（天文2）年5月の旧大和川大洪水によって流され、左岸の現在地に移されたものである。さらにそのすぐ東に**安中新田会所跡**である**旧植田家住宅**（八尾市指定文化財）がある。建造物としては、主屋の他に表門、土塀、土蔵、控舎（番部屋）などがあり、主屋と土蔵（一）は江戸時代後期のもの、表門と控舎は明治中期、土蔵（二）は大正後期に建てられたと考えられている。

JR八尾駅から長瀬川沿いに約500m北上すると、左岸側に八尾高校があるが、その校内に旧大和川堤防跡の小丘「**狐山**」が残されている。八尾高校の北側にある本町の長瀬川沿いには、1878（明治11）年に建てられた**金毘羅灯籠**がある。ここは、長瀬川の船着場があったところで、右岸側が

八尾浜、左岸側が船着場と呼ばれた。

八尾高校の北を東に約500m行ったところに八尾商工会議所があり、その横を流れる八尾220号水路では水辺空間整備がなされ、2009年には市制60周年記念事業として愛称募集が行われ、「**成法せせらぎの小径**」と名付けられた。

八尾高校の北から約500m西方向に向かうと、久宝寺の**寺内町環濠跡**がある。その西には久宝寺緑地が広がっている。その南、JR久宝寺駅の南には、**竜華水みらいセンター**があるが、下水処理施設は地下にある。ここの高度処理水は処理場施設の水洗・潅水、散水用水のほか、河川の維持用水、親水用の市街地せせらぎなど、さまざまな形で利活用されている。

大阪中央環状線をくぐって大阪市に入った平野川に沿って約2km西北に行ったところに、**杭全神社**がある。この付近の**"自由都市"平野環濠跡**や**弁天池**では、近年水質浄化の試みがなされ、話題になっている。平野川はここからさらに約1km西北の国道479号線（内環状線）と交差する**平野川大橋**地点で、洪水防止のために掘られた**平野川分水路**を北に分派し、さらに約1km西の東部中央市場西側で南からの**今川**と**駒川**を合流して、北に向きを変える。

平野川大橋の北東約1kmには大阪市の**平野下水処理場**があり、その高度処理水は平野川放水路に放流されるだけでなく、今川や駒川に浄化用水として送水されている。下水処理水のBODは低いが窒素・リン分の濃度が高いため、河床には藻類の繁殖が見られる。

一方、杭全から今川にかけては南へ向かって地下に「**なにわ大放水路**」が掘られ、今川で向きを西に変えて、長居公園の地下を通って住之江区で**住吉川**にポンプアップされている。平野川中流部では、洪水災害防止のため、さらに**寝屋川南部地下河川**も掘られている。

ところで、長瀬川中流部では地域住民による水環境改善活動が活発化し、奈良県の大和川の支流である葛城川上流の御所市のグループと連携した動きなどが見られる。この地域の河川や水路は、現在、淀川水系に位置付けされているが、その上流で大和川の水を取り入れていることから、市民感覚としてはむしろ大和川流域圏としての意識が強いようである。

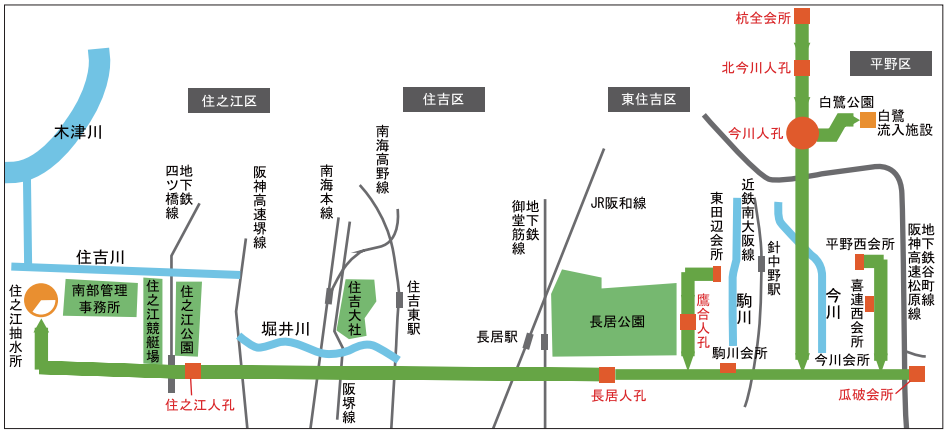
八尾220号水路「成法せせらぎの小径」

平野環濠跡

平野川分水路

今川と駒川の合流点

平野下水処理場



なにわ大放水路

コラム ② 寝屋川南部の地下トンネル河川

寝屋川流域は、急激な都市化により、アスファルトやコンクリートなどで地表が覆われたため、大雨が降ると、街に雨水が溢れ易くなっている。このため、大阪府では、新たな治水対策として、地下にトンネル（地下河川、最大管径9.8m）と地下河川まで直接雨水を集めて流す新たな下水道管（下水道増補幹線、最大管径6m）を一体的に整備する地下のネットワークを作っている。

すでに東大阪市から大阪市阿倍野区に至る地下河川11.2kmが完成しており、下水道増補幹線24kmをあわせて96万㎥の貯留施設ができている。これにより、6100haの区域が時間雨量40mmの降雨に対してほとんど浸水被害が発生しなくなると期待されている。なお、この地下河川は、将来、大阪市の木津川にポンプ排水される計画になっている。

これとは別に、大阪市では、平野区から住之江区に至る総延長12.2kmに及ぶ最大直径6.5mの大下水道幹線「なにわ大放水路」を建設しており、この幹線に集めた雨水を住吉川に排除するポンプ場の計画排水能力は73㎥/sとなっている。

〔寝屋川南部地下河川〕

4 長瀬川・平野川下流ゾーン

長瀬川が中央環状線をくぐって東大阪市に入ると、1kmほど北西に**金岡公園**があり、公園には洪水時に溢水を導く遊水地が設けられている。公園の西側には旧大和川堤防の名残である**百間堤跡**が残っている。さらに500mほど北西に行ったところに長瀬北小学校があり、その横に「**吉松新田会所跡**」の案内板がある。前には桜が植えられ、花期には夜桜見物用の提灯が釣り下げられる。地名「長瀬」の由来は、約1250年前の8世紀頃、高句麗から渡来した長背王の子孫である長背連（むらじ）と呼ばれた人達がこのあたりに居住したことによるらしい。この近く衣摺（きずり）の政垈（まさの）家には、大塩の乱で知られる大塩平八郎の隠れ間があった。

ここで目を川の中に転じると、片側にコンクリートで仕切られた小水路があり、その中に多様な植栽がなされている。この区間はすでに「いきいき水路事業」によって環境整備がなされ、排水路は暗渠化された。現在見られる小水路は排水路ではなく、10年ほど前から「長瀬川水辺環境づくりプロジェクト～長瀬川で水生植物を植えてみませんか！～」で実施されている取組みである。川の中に何か不自然な感じはするが、住民の熱い思いの結晶であろう。長瀬北小学校では毎年秋に収穫祭があり、往時の剣先船を偲ぶEボート乗船体験も実施されている。

「**Eボート**」とは、河川に親しむ市民の交流（Exchange）用として開発された大型カヌーのことで、10人が乗船できるが、組み立て式や折りたたみ式のものが開発され、全国各地で流域交流の有力なツールとなっている。

そのあたりから長瀬川は向きを北に変え、長瀬から菱屋西では、汚水溝を歩道の下に通して隠した構造となっている。近鉄長瀬駅付近では川の上に大規模な駐輪場が設置され、長瀬川そのものが一部暗渠と化している。

そこから約1km北に樟蔭学園樟徳館があるが、その手前に「**帝キネ橋**」というめずらしい名前の橋がある。ここには昭和初期、東洋一と言われた**帝国キネマ長瀬撮影所**があり、近くの松林などでロケーションなどが行われて多くの名作を生んだが、1930（昭和5）年失火により全焼した。その東方には、良質の水が使えたと言われる木村重成水飯場跡がある。

そこからさらに1kmほど北に**延命寺**があり、夏にはその前で川に張り出したバルコニーに盆踊りの舞台が飾られる。そのすぐ北、近鉄奈良線と交差する手前に大阪樟蔭女子大学があり、その横には

金岡公園

旧大和川堤跡

吉松新田会所跡

長瀬川の植栽

Eボート

帝キネ橋

帝国キネマ長瀬撮影所跡看板

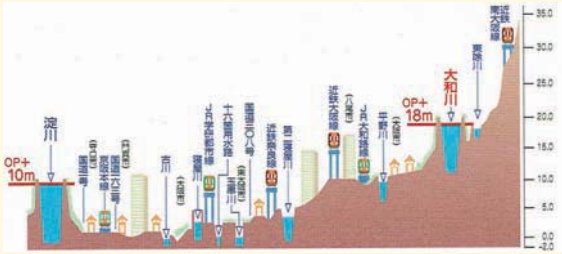
コラム 3　大和川付替えの波及効果

大和川の付替えにより、もとの河道（天井川であったため、微高地）は綿作の適地として生まれ変わるが、低地には大阪商人の資金によって新田の開発が進んだ。

新田の管理事務所は会所と呼ばれ、小作料の取り立てや、橋・道・水路管理や、争いごとの裁判も行われたようである。現在、鴻池（東大阪市）、加賀屋（大阪市住之江区）、安中（八尾市）の3つの新田会所が残っている。

付替え前まで盛んであった剣先船は、その後、大阪市域で新たに掘られた十三間堀川と新大和川を通じて、亀ノ瀬まで運航されるようになった。

なお、新大和川は、付替え工事の12年後の1716年に柏原の締切堤のところで一度だけ切れている。その後、現在にいたるまで、大和川の本川は、浅香山より上流では切れていないが、浅香山から下流では、1872（明治3）年までに住吉側で3回、堺側で3回切れている。現在もしも大和川が破堤すれば、大阪平野の広範囲にわたって浸水被害が生じることから、破堤しにくい堤防としてのスーパー堤防事業が進められている。



〔淀川・大和川と周辺地域の高さ（府道中央環状線付近の断面）〕

河岸に植栽がなされ、ところどころに階段護岸が整備されて水際まで降りることができる。そこから約500m東へ行ったところには、**司馬遼太郎記念館**がある。

最下流部の東大阪市北西部では、両脇に汚水溝を配した風景が長く見られたが、現在は親水整備が完成している。

長瀬川が第二寝屋川に合流する直前には、**稲田桃林跡**、**菱江川跡**、やや東方に**井路川跡**、西方には**高井田遺跡**がある。

東大阪市の北部で第二寝屋川と寝屋川に挟まれた鴻池地区は、新田開発で最も有名な鴻池新田のあったところであり、今も**鴻池新田会所**が残っている。また、その周囲には、**五箇井路**、**六郷井路**などの井路も残っており、それらは徳庵で寝屋川に合流する。

徳庵のすぐ南に**楠根**という地区があり、楠根川の名の由来になっているが、現在では川の名前は第二寝屋川となっている。

第二寝屋川が阪神高速東大阪線をくぐった北側で長瀬川と第二寝屋川に挟まれたところには**川俣水みらいセンター**があり、主として東大阪市の汚水処理が行われている。そのすぐ北で第二寝屋川は大阪市に入って向きを西に変え、放出で長瀬川を合流して平野川分水路と交差した後、鴫野で平野川を合流して大阪城公園の北側で寝屋川に合流する。

平野川の下流部では大阪市の城東区、東成区、生野区、平野区にまたがる平野川協議会が構成され、4区連携による平野川環境景観保全活動が進められている。平野川は、地区によって呼称が変わり、上流から了意川、竜華川、百済川などと呼ばれている。

司馬遼太郎記念館

鴻池新田会所

川俣水みらいセンター

寝屋川から見た大阪城

寝屋川と第二寝屋川

第二寝屋川の下流部には、**放出下水処理場**、**中浜下水処理場**など、大阪市の下水処理場が並んでいる。第二寝屋川がJR大阪環状線をくぐると、すぐ南に**大阪城公園**がある。その前の**大阪城新橋**の南東角に、アクアライナーの船着場がある。

なお、この付近の河川や水路は、大阪湾からの潮汐の影響が及ぶ感潮区間で、水質の維持が特に困難な区間となっており、複雑なゲート操作によってその制御が行われている（この詳細は、なにわの川・庶民の川編「東横堀川・道頓堀川」を参照）。

現在の大阪城（当時は大坂城と書かれた）の内堀と外堀は徳川幕府によって作られたものである。その昔、豊臣秀吉によって作られた城郭は東西南北約2km四方の広大なもので、その外堀は惣堀と呼ばれた。その北辺に当たるのは現在の第二寝屋川で、往時は平野川と呼ばれていた。その西辺は現在の**東横堀川**である。その南辺に当たるのは空堀で、当時から水は湛えられていなかったようである。その東辺にあったのが**猫間川**であるが、現在は埋め立てられて姿を消している。

猫間川は往時、**高麗川**と呼ばれたが、その東を並行して流れる平野川（往時は百済川と呼ばれた）との間の地域は湿地帯を形成し、大坂城を外敵から守る要塞として好条件をなしていた。大坂冬の陣のときに、淀君は外堀（惣堀）のみを埋めるという条件で家康との和議に応じたが、実際には内堀までうずめられて敗北した。

コラム ④ 長瀬川・平野川の水質

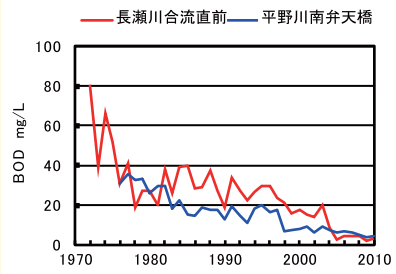
長瀬川、平野川はいずれも大和川から取水していることから、上流部の水質は大和川の中流の水質と同じであるとみなせる。大和川河内橋地点でのBODは1969年には19mg/Lに達していたが、2008年には2.5mg/Lにまで改善されている。

これに対して、長瀬川（第二寝屋川合流直前）でのBODは、1974年に72mg/L、2008年に3mg/Lとなっており、以前は流下途中で汚染されていたものが、最近では大和川の水質に近くなっていることがわかる。

一方、平野川のBODは八尾市と大阪市の境界付近で、1980年に57mg/Lであったものが、2008年には約10mg/Lと数分の一に減少してはいるものの、依然として環境基準を達成していない。これは主として支流の大正川からの流入水の水質が良くないためであると考えられる。

平野川も中流部の南弁天橋では2008年のBODが約4mg/Lにまで改善されている。

このように各地で以前に比べて水質が大幅に改善されているのは、下水道の普及によるところが大きいが、まだ未接続の部分も見られ、一層の改善が望まれる。



〔長瀬川・平野川のBOD値経年変化〕